



蜂ヶ尻、中の島間を結ぶ「中の島大橋」——（57年3月完成）

# 広報 すさき・ 3月号

昭和57年3月1日 発行所・須崎市役所

編集責任者・情報企画課長

（株）中央印刷 No. **321**

市役所代表電話番号2-2311

## 久遠のふしと

### 町かどの出会い

市長 谷

嘉亀

「チョットく、喫茶店で『ご馳走さま』言ったらおかしいかねえ……」。店を出ながら不思議そうに友達に問いかける女子学生の声が、町を歩いていた私に興味深く響いてきた。おおよその想像はつく。「おいしく召上ってほしい」願いを込めて出してくれるコーヒー。たとえお金は出すとしても、ひとりで「有難う」という言葉が出てどうして不思議があるだろう。お嬢さんの家庭をゆかしく感じたことである。

毎朝、寒い中を汽車通の学生が通る。ご苦労さんと励ましてやりたい。だが一つ気になる。ぞろぞろと手にパンやミルクを持ち、食べながらの登校である。せめて空いた容器はキチッとチリ箱へと切に祈る気持ちになるのだが……。時計の針と勉強に追い立てられる生徒たち、朝食抜きを平気に思うようになった母親たち……。チョッピリ同情とともに複雑な想いにかられる。

明けやらぬいてついた町を新聞少年が今日も元気にニュースを運んでくれる。互に顔も定かでない中を「お早う」と彼から声がかかる。思わず「お早う。ご苦労さん」と力がこもる。そのたび「明日もよい天気であって……」と祈らずにおれない。朝の町は寒いが楽しい。

子供たちはさまざまな環境の中で育っている。すべて家庭を土台として……。